

# ～岩手・当時の首長等、4割だけが合併して良かった～

令和2年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名： 「二市町村合併にみる自治の成果と限界に関する調査研究」

研究代表者：総合政策学部 教授 栗田但馬

課題提案者：岩手県市町村課 松村達、田澤清孝

研究メンバー：齋藤俊明（研究地域連携本部）、役重眞喜子（総合政策学部）

技術キーワード：行財政、合併効果、合併評価、市町村長、議会議長

## ▼研究の概要（背景・目標）

本研究では、「自治体戦略2040構想研究会」報告書が公表され、将来の自治体行政の大きな転換が提起される中、「平成の大合併」までさかのぼり、岩手を事例に、①合併協議の全実態、②合併効果を明らかにし、自治を問い直してみた。

## ▼研究の内容（方法・経過）

本研究は、岩手における合併ケースの中で最多である2つの自治体の合併に焦点を当てた。主な実施方法（取組み）は、合併当時の首長・議長16人（10の合併市町の旧市町村単位）に対して合併協議や合併実績に関するインタビュー調査を、対面式で実施した（オール・ヒストリー）。その内訳は首長8人、議長8人である。

## ▼研究の成果（結論・考察）

合併の評価は、非常に良かった0人、少し良かった7人、少し悪かった3人、非常に悪かった2人、どちらとも言えない4人である。人口・財政規模や財政力などの点で「小さい」自治体の首長、議会議長の評価は総じて低かった。とくに合併後のまちづくり等を巡る約束事が十分に守られていないという根拠がある。

## ▼おわりに（まとめ・今後の展開）

結果としての合併評価は直視されなければならない一方、新たな行財政課題が生じるなかで、合併検証が丁寧に行われていないことが根本的な問題としてある。今後の展開としては、①合併効果を、コミュニティ活動等にまで広げて明らかにする。②『合併証言録』を出版する。合併時の首長、議会議長には長時間のインタビューに真摯に対応していただき、この場を借りて感謝を申し上げます。

### 《岩手の平成の大合併》

- 1) 大船渡市・三陸町→大船渡市
- 2) 宮古市・新里村・田老町→宮古市
- 3) 西根町・松尾村・安代町→八幡平市
- 4) 一関市・花泉町・川崎村・大東町・千厩町・室根村・東山町→一関市
- 5) 遠野市・宮守村→遠野市
- 6) 沢内村・湯田町→西和賀町
- 7) 花巻市・石鳥谷町・大迫町・東和町→花巻市
- 8) 種市町・大野村→洋野町
- 9) 二戸市・浄法寺町→二戸市
- 10) 盛岡市・玉山村→盛岡市
- 11) 水沢市・江刺市・胆沢町・前沢町・衣川村→奥州市
- 12) 久慈市・山形村→久慈市
- 13) 宮古市・川井村→宮古市
- 14) 一関市・藤沢町→一関市

### 《質問の主な構成》

- 合併の必要性
- 合併までの状況
- 合併の評価
- 今後の課題

### 《合併の評価》

